

令和5年 病害虫防除指導情報 第4号

作物名：アブラナ科野菜
病害虫名：ヨトウガ・コナガ

ヨトウガ・コナガの発生が平年より多くなっています。
卵やふ化幼虫の発見に努め、早期防除を徹底しましょう。

1. ヨトウガ及びコナガの成虫誘殺状況

- (1) フェロモントラップによるヨトウガの誘殺数は、津軽地域が平年より多く推移し、県南地域では平年よりかなり多い状況となっている。
- (2) コナガの誘殺数は、津軽地域では4月下旬から増加して平年より多く推移し、県南地域でも5月下旬から増加している。
- (3) ブロッコリーやキャベツで幼虫による食害が見え始めている。今後、気温の上昇に伴い、産卵量も増加すると推察され、初期防除を徹底することが必要と考えられる。

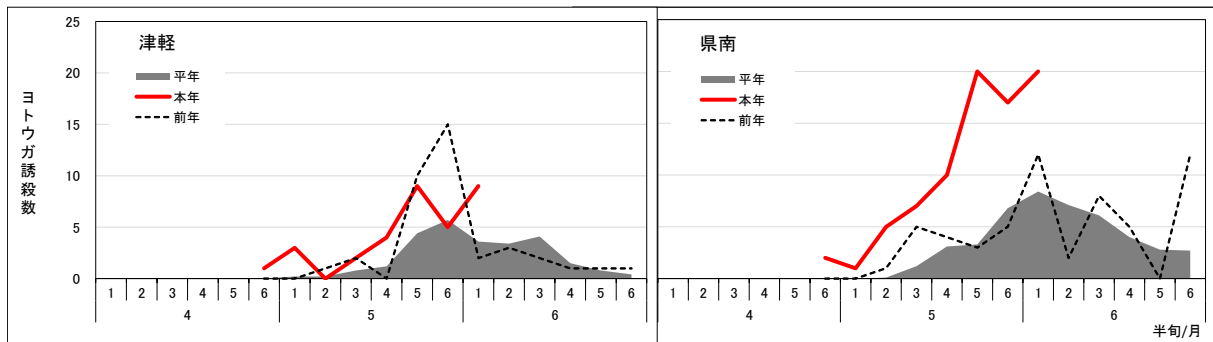


図1 津軽地域（左）、県南地域（右）のヨトウガ成虫誘殺状況

注）津軽誘殺地点：弘前市清野袋、 県南誘殺地点：おいらせ町一川目。

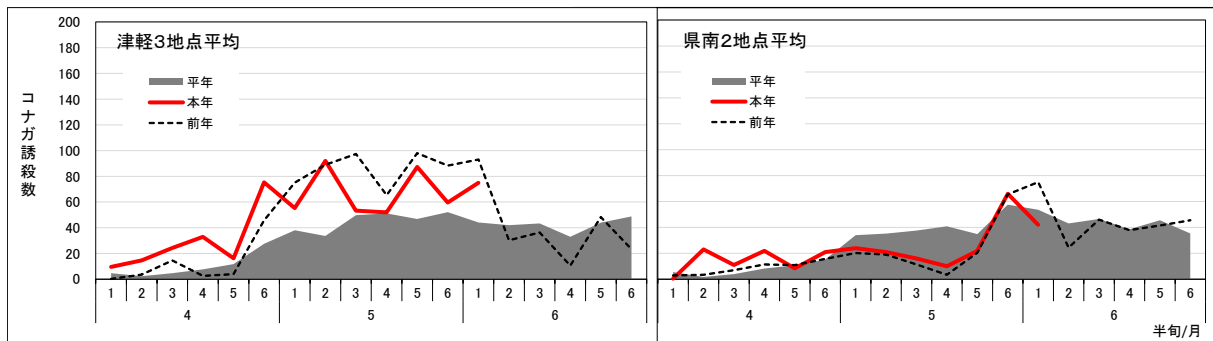


図2 津軽地域（左）、県南地域（右）のコナガ成虫誘殺状況

注）津軽誘殺地点：弘前市清野袋、つがる市木造吹原、つがる市富滝町。
県南誘殺地点：おいらせ町一川目、十和田市相坂。

2. 防除対策

- (1) 生育初期に発生すると被害が大きいので、定植時の薬剤防除を徹底する。
- (2) 老齢幼虫になると薬剤の効果が劣るので、ほ場をよく見回り、若齢幼虫のうちに防除する。
薬剤散布にあたっては葉裏まで薬液が届くように丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。特に、コナガではジアミド剤（IRACコード 28）の抵抗性個体群が確認されているので、同一系統薬剤の散布回数に留意する。

【参考】



【写真】 ヨトウガの卵（左上）と 幼虫（左下）。 コナガの卵（右上）と 幼虫（右下）。

卵塊から孵化した幼虫は集団で食害し、成長すると隣接株に分散する。葉に不規則な穴をあけて食害し、さらに葉脈だけ残すように暴食する。キャベツの結球部やブロッコリーの花蕾内部まで食入し、品質低下の一因となる。

孵化幼虫ははじめ葉肉内に潜孔する。成長した幼虫は、葉裏に寄生して表皮を残して白くかすり状に食害する。触ると素早く後ずさりしながら糸を吐いて落下する特徴がある。暴食されると生育が著しく妨げられるほか、結球部や花蕾部まで食害されて、品質低下の原因となる。

《この情報に関する問い合わせ先》

青森県病害虫防除所 担当：主任専門員 柳野利哉
TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900
〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6
E-mail: byogaichu@pref.aomori.lg.jp

※当情報は、青森県農業・就農情報サイト：農ナビ青森(<https://www.nounavi-aomori.jp>)に掲載しています。